



表紙の写真
たて なしの よろい
「櫛無鎧」

正式名称は「小桜韋青道瓶鎧・兜大袖付」という。塙山市の菅田天神社に所蔵されている。甲斐源氏の始祖新羅三郎義光以来、「日の丸の御旗」(雲峰寺藏)とともに武田家代々の重宝として尊崇されてきた。

武田家誓約の言葉に「御旗櫛無もご用賀あれ……」という言葉も残されている。

信玄公の時代、甲府の鬼門鎮護を離れて菅田天神社に奉納、一門の於賀氏に監守させたが、武田氏滅亡の際その保存をめぐって転々とし、家臣の田辺左衛門尉が向岳寺の杉の木下に埋めた。徳川家康が入甲の際、発掘して再び同社に納めたといわれる。

鎧の高さ65.1センチ、兜の高さ10センチ、前後径19.4センチ、大袖の高さ42.4センチ、両幅33.3センチ。

平安時代の鎧の歴史をうかがうことができる名品で、昭和27年(1952)国宝に指定されている。

(写真と文:浅川 輝)

「MUH」vol.16 1998.4.1

企画／早野グループ「MUH」編集室

深沢進・矢田道生・横田雅幸・久保田充一

編集／株式会社ニュースメディア甲府

三浦弘・三井君男・山川エミ・高山ひとみ・

原田陽子・宮塚利雄・杉村聰・青木茂樹・

浅川毅・橋克明

印刷／電算印刷株式会社

誌名の「MUH」は、早野組の社説である「和」を託した
Mate (仲間) Union (結束) Harmony (調和) の頭文字から
とりました。幻のムード大陸のロマンを目指します。

フォーラム	
テーマ 記念写真	江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤真佐美
対談	
山梨21 石川 博	氏(郷土史家) ホスト 早野 潔 正の木さんはいつから 甲府城と二つの福荷神社 江戸に負けるな風 江戸文化の城下町甲府 男の子の7割は寺子屋へ 役者も浮世絵師も、続々と
トピックス	
IMF(国際通貨基金)寒波に翻弄される韓国社会	10
企業ウォッチング	
山梨日立建機 雨宮 清氏	13
サークル訪問	
みどりの風	14
セミナー	
21世紀の街づくりへの胎動 Part1	15
インフォメーション	
早野組・トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運	16
ようこそ歴史	
徳島平左衛門	上野晴朗 18
アートへのまなざし	
ホクの美術品観察日記9	山本育夫 20
トレンド	
ワイン&チーズ	22
BOOK	
こんなところに山梨…	BOOKコーナー 「江戸の園芸」 23
達を見るハイキング	
小菅川 雄滝	上野 嶽 24
甲府通運前史を訪ねる(10)	林陽一郎 25
ユーザー訪問	
有限会社ミシマソフトドリンク	26
お座見	
奥石 光親さん	27
リレーエッセイ	
シタマチへ行く	福岡哲司 28
ときのひと・FACE	
トヨタビスタ山梨 小林 達也さん	29
おしゃれ	
グランパーク Love Love	たべる (株)甲州葡萄酒本舗 30
お茶の間の民俗学(7)	
—ふるさとの心と味(2)—	志摩阿木夫 31
コラム	
某月某日	32

江戸のプロマイド

江宮隆之

新聞記者をやっている頃から、写真を撮られるのが嫌だった。旅行などでも、もっぱらカメラの担当。自分がその記念写真的に入れるのも好きではなかった。だが、新聞に写真は欠かせない。

「ちょっと写真を撮らせてもらっていいですか？」などと優しい言い方で、かなり強引に他人にレンズを向けてきた。そういうしているうちに気が付いたことがある。それは、写真を撮られるのを嫌がらない、もっと言えば、写真を撮られるのが好きな人と、どうしても嫌な人の二種類に別れることである。そうやって分析してみると、自分自身は後者であることが分かった。

ところで江戸時代のことだが、当然写真はなかった。その代わりに浮世絵というものがあった。役者絵などは、今のプロマイド（といっても若い人たちには死語であろうか。今はタレントの生写真などというらしい）の代わりを果たした。写楽のあの独特の浮世絵は、文字通り「写真」代わりであった。役者の顔を美しくではなく、女形の醜さや本来強いはずの立役の氣弱な表情をそのままに描き写したような浮世絵で、発表当時は描かれた役者からも江戸の庶民からも、あまりにリアルすぎるとして、結局はそっぽを向かれ、写楽の活躍時期は二年と保たなかった。

それに対して、豊国も歌麿も役者らしく描いたから、その人気は写楽の比ではなかった。三代豊国の描いた「踊形容來絵巻（おどりけいようゑとゑのさかえ）」は幕末の江戸・中村座の芝居団である。舞台正面には悪役善玉がずらりと並び、桟敷まで観客はぎっしり千人ほどもいるようだ。花道には七代目といえども当然市川團十郎演じるところの「暫（しばらく）」の主人公・鎌倉権五郎が目玉をぎろりとさせて悪人たちを睨んでいる。

まさに大芝居の記念写真である。文久2年（1862）横浜に下岡蓮杖が日本初の写真館が開設された。以後、写真が日本国内中に流行っていく。明治になると浮世絵はすっかり廃れて、写真に取って代られる。だが、頑迷な人々は写真を撮られると魂を抜かれるといって撮影を嫌った。すると、撮られることを嫌いな私も…。

■1948年山梨県生まれ。第13回歴史文学賞、第8回中村星湖賞受賞。「白痴の人」（河出書房新社）が5月文庫本化。7月に「小西行長」（PHP文庫）を刊行

記念写真はVサインで

古屋久昭

数えたこともないのだが、五十歳を越えた年齢ともなれば、自分のアルバムだけでも、おそらく二十冊以上はたまっているだろう。

年齢を増すごとに写真もアルバムも増えていく。大半は子どもが親離れする四十歳前後ごろまでがピークであって、その後の勢いは衰える。私に限ったことではなく、大抵ふつうの暮らしや生き方をしていればそうなる。

さてそうした写真の中から、あえて記念写真を抜き出して見れば何枚ぐらいになるのだろうか。その前にそもそも記念写真とは何ぞや。考えてみれば、知らぬ間に撮られた写真ならいざ知らず、ほとんどの写真が記念写真といえば記念写真ということになってしまうのではないか。「記念に1枚撮ってもらおう」といえばみんな記念写真だし、撮影の動機なんてこんなものだから、そういう意味では大概が記念写真なのである。もちろん赤ちゃんの出生から、入学だの卒業だの結婚だの米寿だの人生の節目絶節目や、大事に撮った写真などは、同じ記念写真でも「特別記念写真」ともいいくべきだろう。

それにしても、記念写真というものは、背景や一緒に写っている人だけが変わるので面白い写真というものは案外ないものである。無表情にして、棒杖のように突っ立っているだけの写真が多い。

ところで、あるときから写真を写してもらうときのポーズが桂で一齊に流行になり、いまで馬鹿の一つ覚えのようにこのポーズをしていいのだ。そう、「Vサイン」のポーズである。この「Vサイン」、一体だれが流行らせたのだろう。表彰ものである。ポーズの革命とまで譽めたり、従って写真の印象がずいぶん明るくなったものである。

私の記憶では、この「Vサイン」、第二次世界大戦の先駆国一つ、イギリスのチャーチル首相がこのVサインのポーズを大衆にして見せたのが何かの写真に載っていたような気がする。そして誰かがこの彼のVサインをチャックリまねしてしまったのではないか。

八十歳になっても百歳になっても、記念写真に収まる時ぐらいは私も「Vサイン」をしたいものである。そしてウソぶきたい、「おれは人生の勝利者さ」なんてね。さてさて現実は。

■1943年御坂町生まれ。日本現代詩人会員。日本現代詩歌文学館評議員。詩集に「料理考」「椅子の腰」「落日探集」。童謡集に「ゆらしく花らしく」。そのほかエッセイ集「日々のおこぼれ言葉の微熱」など

新井将敬代議士の記念写真

岩崎正吾

深夜の討論番組に視聴者代表で出演した友人が、その時の記念写真を見てくれた。「この威張っているようなのは誰?」「新井将敬という政治改革の旗手的な代議士だよ」

2月19日にテレビをつけたら、その代議士の自殺の報道で持ちきりだった。新井氏の自殺の原因は、多くは彼の肥大したプライドに原因すると思う。政治改革を説いた政治家が、証券会社から違法な利益を得た。世間は堕ちた天使に厳しいから、東大、大蔵官僚、国会議員と日の当たる所を歩いてきた者にとり屈辱的なことだったろう。さらに逮捕、裁判、有罪判決が予想されるとなれば、自尊心に耐えられなかつたのではなかつたか。

報じられた新井代議士の強気の説明は、東大出の利口バカの典型に思えた。態度は堂々、論理に破綻はないが、根本的な矛盾がある。新井代議士の言う正々堂々の商行為なら、なぜ借名口座を使う理由があったのか。証券会社に利益を求めると言つたと言うが、求めないので利益を勝手に付ける証券会社など聞いたことがない。株の売買は自己責任において行うものであり、証券会社は注文を受けるだけである。それが社会の常識というものだ。にも関わらず勝手に利益を受けたのなら、それは不正の匂いのすることで政治家たるもの拒否すべきであろう。利益はちゃんと自分のものにしておいて、相手が勝手に付けたという論理は世間では通用しないことではないか。

新井代議士が生き延びる道は一つしかなかった。自分の罪を認め、謝罪し、議員辞職することだ。そして謝罪の証として、大蔵省と金融界の懲戒の実態を明らかにすることだ。非を認め社会の向上に貢献すれば、あるいは再起が出来たかも知れない。在日韓国人出身、金も人脈もない新井氏を四回も当選させたのだから、選挙区は偏見のない意識の高い人々が多いことを示している。本当の政治家ならば、賢明な選挙区の人々に判断を委ねるべきではなかつたか。民衆に支えられながら、実は民衆を信じていないエリートの破綻を、新井将敬氏の自殺にみることができる。合掌。

■1944年甲府市生まれ。小説家。長編歴史ミステリー「異説本能寺・信長死すべし」が講談社文庫として再刊。新しい信玄を描いた長編歴史エッセイ「武田信玄はどこから来たか—武田騎馬隊の謎を追う」（山梨ふるさと文庫刊）が話題を呼ぶ

ジョニーは目が悪いのだ

佐藤真佐美

1972年の7、8月、ぼくはソウル大学の語学研究所で韓国語を学んでいた。東大門の近くにある「韓国学生会館」というのが宿舎で、ここには1969年のミス・インドとか、ベリー・コモ（アメリカのタレント）の従兄弟でジョニー・コモとか、韓国人から半畜生と呼ばれる在日韓国人の若者たちがいた。ショッパリというのには「ひづめの割れたやつ」という意味で、草履とか下駄などを履く日本人をからかって呼ぶ言葉である。

ま、それはともかく、この会館には地方から出てきた韓国の若者もたくさん入っていて、日本人と彼らは争いが絶えない。韓国人は日本人学生を見ると侵略者と罵り、特に農臣秀吉と伊藤博文はくそみそだった。初めてのうち戸惑っていた日本人も、言葉を覚えてくると反撃に出る。侵略してきたのはこの国のはうが先だ。蒙古襲来のおり先陣をつとめたのは韓国兵で、その残虐ぶりは目に余るものがあった。過去の戦争はその復讐だとこのあたりぼくは勉強不足だったのだけれども、のちに白石一郎の小説で、玄海灘に浮かぶ島々が全滅の憂き目にあったことを知る。

ま、それはともかく、ぼくはまだろくに話せもしないのに大学院を受験し、国際大学校の経営学専攻に無事合格する。というより、この白学長が戦前の明治大学を卒業した人で、「日本人の留学生は初めてだ。いい宣伝になる」と、2000ウォンで入学許可書を売ってくれたのだった。当時のレートは100円が140ウォンほど。物価は日本の4分の1くらいだった。ジョニーは受験に失敗し、ぼくが2000ウォンで合格したと話すと非常に怒って、小瓶に入った水虫の薬を2000ウォンで買えと脅迫してきた。

ま、それはともかく、入学手続きをするため写真屋へ行ったのが、出来上がった写真を見て「おまえは詐欺師だ」とジョニーはふたたび怒り、やむなく水虫の薬を買った。この国の写真屋さんは、実物以上にハンサムに修正する技術がなければ、商売にならないのである。ぼくは実物のほうが優ると思っているのだが、とりあえずそれを一枚、記念に保存している。

■1939年北海道生まれ。日本児童文学学者協会・日本児童学協会会員。著書に『怪奇！大東京妖怪ゾーン』（ボブラン社）『文ちゃんのはるかな知床』（北海道新聞社）近著に『シレットフのシルバー』（華文社）『山梨の童話』（リブリオ出版）など



もっと元気に 城下町甲府
庶民の祭り「正の木さん」
治水の恩人 山口素堂の風雅

ゲスト

いし かわ ひろし
石川 博
郷土史家

ホスト

はやの まさし
早野 潔
早野紹社長

正の木さんはいつから 甲府城と二つの稻荷神社

早野 今年は大雪もあり、それだけに待ちかねていた春ですが、新緑とともに甲府の町に活気をみなぎらせるのが「正の木さん」ですね。

この庶民の祭りは、いつごろからはじまったのでしょうか。

石川 「正の木さん」というのは太田

町の一蓮寺の隣にある稲積神社・正之木稻荷のお祭りですが、もともとは甲府城のあるあたりに祀られていたお稻荷さんです。それが戦国時代の終わり、江戸時代になる直前の頃、甲府城を築くときに一蓮寺と一緒に移されたのです。この時、お稻荷さんは、二つになりました。一蓮寺と共に太田町に移ったお稻荷さんと、甲府城に残ったお稻荷さんです。この甲府城のお稻荷さんは「庄城

稻荷」といい、現在はお堀端に祀られています。甲府市社会教育センターの北にあたります。

早野 歴史あるお稻荷さんですね。この二つのお稻荷さんは、それぞれどんな信仰を集めていたのでしょうか。

石川 甲府城のお稻荷さんは、江戸から来ていた甲府勤番の武士たちに信仰されていました。一方、稲積神社のお稻荷さんは庶民の信仰を集めました。いずれも大変な賑いだったということが記録に残されています。

「庄城稻荷」の石碑には、寄進者の早野金蔵という銘が刻まれています。この方は早野社長の先々代でいらっしゃいますね。

早野 はい、私の祖父です。

石川 お稻荷さんというのは一般的には商業の神様ですが、甲府のお稻荷さんは、武士にも、庶民にも広く慕われました。ことに養蚕関係の人たちの神様とされていたのが特徴です。正月3日というものが最も大きな縁日で、毎月3日が縁日でした。

早野 子供の頃から耳にする言葉で「どっこいしょの正の木さんは4月の3日」というのがありますよね。さてこれから、というふうな時に、勢いをつける調



■石川 博

1957年甲府市生まれ。慶應義塾大学卒。近世文学を専攻。駒込甲府高校教諭。山梨郷土研究会の機関誌『甲斐路』編集長。共著「人づくり郷土記・山梨」など。論文「開拓本をめぐって」「浮世絵や灯籠に見る近世の善光寺」ほか。県内各市町村誌の民俗、民話、文学、方言などの項目を担当。

子で声をかけたものです。

石川 いつの頃からか、農家の人たちが種や苗を買ったり、養蚕がこれから本格化するという時期の3日が、他の月の3日よりも活気を帯びるようになったのだと思像されます。「どっこいしょの正の木さんは4月の3日」の4月3日は旧暦ですから、現在は1ヵ月ずれて5月の3日ということになります。

早野 縁日の活気が市を形成して、農具や生活用品も売買されるようになり、やがて今日のような植木市へと変わっていったのです。かつては見世物小屋なども建ち、賑やかで、ワクワクもしましたね。

やはり甲府の、新緑の季節の祭りといえば、昔のままに「正の木さん」ですね。どなたにも懐かしい思い出がありますね。

江戸に負けるな気風 庶民文化の城下町甲府

早野 今日の甲府の町は、都市化とともに暮らしも景観も変わってしまいました。空洞化により、元氣のない町になってしましました。そうした状況だからこそ、なおのこと知りたくなるのは、活気にあふれていた時代の、甲府

の姿です。

江戸時代の甲府の町というのは、どんな性格の町だったのでしょうか。

石川 甲府にはお城がありました。江戸から勤番が来て治めていた地ですから、よその城下町とはいささか事情が違います。甲府勤番と甲府の庶民との交流というのも、文化的な刺激はあったにせよ、あまりなかったようです。

その意味では、甲府の町は、もともと甲府の人間が創っていた、といつてよいでしょう。その頃の甲府というのは、農業中心で食べるのに精いっぱいという時代から、しだいに文化を享受する時代へと向かっていました。

柳沢の時代はそれほどではありませんでしたが、文化、文政、天保となるにしたがい、豊かになっていきました。これは、日本全体の生産力が向上し、生

活に余裕ができたことと平行しているのだと思います。

早野 城下町の人口はどのくらいだったのでしょうか。また、甲府勤番というのは、どれくらいの規模だったのですか。

石川 甲府勤番は、大手、山手の二組があり、一組につき200名ずつが配属されていました。その内訳は、組頭2名、勤番士100名、同心50名、与力10名ほか、という構成です。これらに、それぞれの使用人が加わります。

さて、府中の人口はといいますと「甲斐国志」には文化10年(1813)頃として、9566人、2059戸と記しています。この府中といいますのは、明治期の甲府市にはほぼ重なる地域です。

早野 甲府の人間の気質は、どのようなものだったのでしょう。城下町と



早野 潔



はいえ、勤番制度における甲府は、他の城下町とは異質だとのご指摘がありましたが。

石川 勤番の子弟が学ぶ徳典館という学問所が甲府にありました。江戸からここへ派遣された人の書いた文章が残っています。そこでは、甲府の人というのは、江戸の者には負けないと評しています。

したがって、江戸で流行ったものには敏感で、すぐに取り入れようとする気風もあったようです。

早野 現在の甲府気質と比較すると、なんですか、似ているところもありそうです。

男の子の7割は寺子屋へ 役者も浮世絵師も、続々と

石川 甲府の庶民は勉強好きでした。近世の後半、1800年以降ですが、記録を見ますと町中の男の子の6割、7割は寺子屋に通っていました。女の子は3割ほど。それを思いますと、子供といえども簡単な読み書きはみんな出来ますし、論語などもかじっていたことになります。

早野 それは頼もしい。寺子屋というのは、どんなふうだったのですか。

石川 それぞれの寺子屋がそれぞれに工夫をしていたようです。小さい寺子屋ですと7、8歳から12、3歳までの3、4

0人がひとつの部屋で机を並べ、お習字などは大きい子が小さい子に教える、というやり方があったようです。

いくらか大きい寺子屋ですと、教室もいくつかあり、年齢ごとに教えていました。あるいは、午前中は低学年、午後からは勉強の進んだ子供たちに教えたり、という具合でした。

早野 文化的香りも高く、歌舞伎の興行もしばしばあったようですね。甲府の

観客は目が肥えていたので、役者の給金を決める場所であったとも聞いています。

石川 歌舞伎の興行にあたっては、甲府の商人たちのうしろだてがあったと思います。商人たちは、甲府の文化に大きな貢献をしましたね。市川團十郎との交流を示す手紙のやり取りも残されています。現代も暖簾のある菓子の老舗の牡丹亭満寿太さんも、その一人でした。團十郎にちなんだお菓子を売り出したりしていました。

早野 高名な浮世絵師も、続々と訪



じつに遊び心があります。飛び双六といいまして、現在の回り双六と違って、なかなか先の見当がつかない、上がりが推測しにくいものです。

早野 ここに描かれているのは江戸の風俗ですね。洗練されていますね。化粧や髪型など、当時の様子が偲ばれますね。こうした遊びが、甲府で流行し、ごく一般家庭で行われていたというのは驚きですね。暮らしの空気も伝わってきます。身近に、江戸と直結した店があったのですね。

石川 女性や子供向けの読みものであった草双紙や、浮世絵を置いた本屋がありましたし、貸本屋が賑いました。

では、大人たちの遊びはというと、甲府では俳諧が盛んでした。俳句と違うのは、何人かが集まって作るというところで、最初の人が五、七、五と作ると、次の人がそれを受けて、七、七と作り、これを交互に連ねて一編を作るという形式で、おどけやおかしみが身上です。

これを趣味とした人は、月に5、6度は集まりをもったといいます。こうした俳諧のものはやされ方は、膨大な記録として残されています。古い家のお蔵であれば、かなりの割合で出てきます。

早野 社交の場でもあったのでしょうか。

されていますよね。

石川 はい。広重、三代目の豊国、それから国芳なども滞在しています。やって来た理由はいろいろですが、ひとつは、道祖神祭りの幕を描きにきています。それぞれの町が豪華さを競い合い、張り合い、江戸から絵師を招いて描かせたわけです。

たとえば、「甲州善光寺初午の図」という、豊国が三枚続きで描いた浮世絵もあります。国芳には正の木さんを題材にしたものもあります。

早野 城下町とはいえ、甲府は勤番

で、いってみれば旗本たちの左遷の地です。島流しの地という印象はいなめないでしょ。そうした甲府だけれど、庶民にとっては、甲府には甲府のいいところがある、江戸には負けるまい、という自己主張があったのでしょうか。

流行に敏感な土地柄 俳諧は社交のたしなみ

石川 ご覧ください、これは江戸時代の双六で、どこの家にも普及していた楽しい遊びです。サイコロを振って進むのですが、その進み方のしくみに、



うね。みんなで作って批評し合うから、上達もしたのでしょうし、文学としても高まっていたのでしょうね。これは、今日にいたる短文芸の土壌になったと見ることも可能でしょう。

無尽はいかがだったのでしょうか。当時から、盛んだったのですか。

石川 はい、無尽も盛んでした。これも甲府の特質のひとつでしょう。もっとも現在の無尽と比較すると、かなり金融としての性格が強かったでしょうね。

「目には青葉」の俳人・素堂 濁川改修工事と桜井政能

早野 この新緑の季節になりますと、テレビやラジオの時候の挨拶として、また、手紙の書き出しにもよく使われる句で「目には青葉 山ほどとぎす 初鷺」というのがあります。有名な句ですが、この作者である山口素堂は甲州の出身ですよね。

石川 季節感を表わした句の多い俳人でした。白州で生まれ、甲府の魚町で育ったといいます。家は酒屋をしていて長男だったのですが、家督を弟に譲り、20歳頃に江戸、もしくは京都に出たといいますが、消息ははっきりはわかりません。

江戸初期の有名な学者に北村季吟がいて、源氏物語の解説や俳諧においても功績のある学者ですが、この北村季吟の弟子であったともいわれています。この方は京都の人ですから、素堂は京都で学んだこともあったのではないかでしょうか。

早野 芭蕉とも親交があったといわれています。素堂の方が若干年上ということになりますか。

石川 行き来があったことも確かです。素堂と芭蕉とで作った俳諧も残っていますし、芭蕉の亡くなった後の追善の句もあります。

早野 素堂はまた、俳人であるとともに、土木の技術ももっていて、甲府の濁川の治水をし、ふるさとに貢献した偉人としても語られています。地域の環境づくりは当社と心をひとつとするもので、かねてから関心をもっていました。

石川 江戸時代には濁川と平等川が一緒になって、笛吹川に流れ込んでいました。現在の蓬沢交差点の少し下あたりで合流していたのですが、平等川の方に砂が積もってしまい、濁川が流れ込まないという事態に見舞われていました。そのために周辺はいつも水浸して、災害を被っていました。

さくらひまさよし
当時の代官は桜井政能という優れた人物でしたが、この代官の知人が素堂ということになります。折しもこの時、素堂は母親の供養のため江戸から身延へ向かう途中で、甲府に立ち寄ります。ここで桜井政能と再会し、濁川の改修工事の陣頭指揮をとることになります。

工事は数年に及びますが、新しく築いた土手の総延長が、3230間といいます。

早野 よそ5800メートルですね。この土手はその後、今日にいたるまで役割を果たし続け、地域を救っています。大変な功績です。

石川 工事が終わり、開通し、はじめて水が落ちたのを見たときの住民の喜びようの記録が、いまも残っています。

早野 感動したでしょうね。

石川 そのことにより代官の桜井政能は、生きたまま神様にされました。生祠といいますが、現在も蓬沢町と西高橋町の境付近にあります。

早野 郡土の歴史は、そして先人たちは、今日の私たちにたくさんのメッセージを送ってくれていますよね。その声に耳を澄ませなければなりませんね。そして、21世紀の城下町・甲府を創造していきたいですね。

[構成：三神弘]



双六の「上がり」の拡大図 当時の風俗がうかがえる



濁川の改修工事で住民を救い、生きたまま神として祀られた代官・桜井政能の生祠 蓬沢町と西高橋町の境付近

そうしあわせあたりごろく 「草紙合高評双六」

三代豊国画
安政2年(1855)若林堂発行
約73センチ×73センチ



当時人気のあった草双紙（大衆向けの小説）の登場人物がぎりぎりと並んでいる

浮世絵と庶民の遊び

石川 博

浮世絵というと今では何か高尚な芸術のように扱われ、また、所持なきつている方もないでしょう。しかし、江戸時代には一般庶民が購入したものですが、ここにお見せする双六は、浮世絵で有名な三代豊国（国貞）が描き、技法も全く浮世絵と同じ木版の多色刷りですが、鑑賞用ではなく、この上で駒を動かして遊んだもので、いわば、おもちゃがないで遊ぶ。「上がり」の場面には、歌留多をしてみるとところが描かれていますが、大人の女性が眉を剃り、お箋墨を施しています。浮世絵が描かれており、指定した場面に進みます。隣とかいて、先とかではなく、サイコロの目によって、いくらい近いのかわかりません。また、例えば「回り双六」といつて順路に沿って進んでいくが、当時は多くが「飛び双六」と呼んでいましたが、自分の駒のいる場面が「上がり」にどれくらい近いかわかりません。また、例えは自分が出ると上がりから遠く離れてしまいます。実際に遊んでみるとスリリングです。

望まれる財閥主導の経済構造の 根本的な改革と国民の経済意識の高揚

IMF(国際通貨基金)寒波に 翻弄される韓国社会

放漫經營が
金融危機の招来

アジアの昇龍ともてはやされ、OECD（経済協力開発機構）にも加盟して念願の先進国入りをはたした韓国が、昨年の暮れに突如として金融危機に陥り、IMF（国際通貨基金）や日本、アメリカなどに総額600億ドル以上の緊急支援を要請した。韓国民の誰もが自国の経済は順風満帆に成長していると信じて疑わなかっただけに、IMFへの支援要請は青天の霹靂へきりであった。世論は国難の克服のためとはいえ、“経済信託統治国”になり下がったことは、第二の「国恥日」であると憤慨している（ちなみに、第一の「国恥日」とは日韓併合）。

韓国政府はIMFとの合意に基づき、厳しい緊縮財政を余儀なくされており、経済成長率の抑制(急速な鈍化)はもとより、経済・金融・雇用構造などの大幅な改革が行われている。それにしても、今回の金融危機は突如として襲ったのではない。いくつかの要因が複合して、このような事態を招いたのであるが、その最大の理由は韓国政府の「放漫な財政金融政策」にあった。このために經常取支の赤字は増大し、96年には237億

国民生活に重く のしかかるIMF寒波

IMF寒波(経済構造の大改革)は国民生活に容赦なく押し寄せている。金融破綻による倒産や廃業に加え、各企業は生き残りをかけて大々的なリストラを断行しており、その結果、失業者が増加し、統計庁が発表した97年11月段階

の失業者数は、57万4,000人と87年2月以降過去最高を記録した。1日平均で4,200人が失業していることになる。失業者の増大は「離婚率の低下」という皮肉な現象を招いているが、逆に凶悪犯罪も増加している。

通貨であるウォンの価値が前年に比べ半分になったために、輸入品の値段が急増し、ガソリン35%、砂糖43%、食用油27%、灯油77%と、物価上昇は止まるところを知らず、国民の耐乏生活はとどまるところを知らず、財布のヒモは締まる一方である。このために、九州の温泉地帯では最大の顧客であった韓国からの新婚旅行客が激減するなど、日本にも通貨危機の影響がはじめている。もっとも、ソウルの名物であった交通ラッシュも、ガソリンの値上げで、自家用車を売って地下鉄やバスで通勤する人が増えたために少しほは解消されている。しかし、医療器具や材料を輸入品に頼っている病院では、十分な手術が行えず、患者数も減っている。

もっとも、韓国民の間には今回のIMF寒波が、国民生活に蔓延していた「奢侈・ぜいたく」の風潮を改めさせる良いきっかけとなったとして、「災い転じて福となす」思考でこの難局を乗り切ろうと

している。

韓国経済再建の方途は

IMFからの緊急支援を受けるなど、外資不足におちいっている韓国経済を国民全体で支えようと、一般家庭にある貴金属や金製品を集めて外貨に変えようというキャンペーンが大々的に行われ、二日間で1億6000ドル相当の貴金属が集まつたといふ。韓国の家庭のタンスの中に眠つてゐる金を中心とする貴金属は、3,000トン(300億ドル)とまで言つてゐる。しかし、国民の善意だけではこの難局を乗り切ることはできない。まずは、財閥優先の経済構造を改革し、金融機関の整理が至急であり、2月25日に出帆した金大中新大統領もこの点を強調している。また、韓国が金融危機から脱出するためには、日本からの金融支援が大きな役割を果たすことになる。具体的には邦銀の短期融資の期間延長と継続した金融支援である。韓国がくしゃみをすれば、いつ日本がカゼをひく事態が起こらないとも限らない。韓国の金融危機は対岸の火事ではない。友好善隣のためにも韓国に積極的な支援が望まれている。

〔文：宮塚利雄〕

愛国心で経済危機克服

南北交流 大流 拡

大統領就任演説



「失業者を助けましょう」IMF失業者 愛の助けあい本邦
부기 21일 오후 서울 광화문에서 벌인 「후원민 모집
행사」에서 시민들이 매달 1만원을 일금하는 행사를
개최하겠다는 서명을 하고 있다. <李超元기자>

A black and white photograph capturing a bustling indoor market scene. A long, narrow table is the central focus, stretching from the foreground into the background. The table is completely covered with a dense array of small, rectangular objects, possibly packages or pieces of cloth, arranged in rows. A large, diverse crowd of people is gathered around the table, their heads and shoulders visible as they look down at the items. The lighting is somewhat dim, creating deep shadows and highlighting the texture of the people's clothing and the items on the table. The overall atmosphere is one of a busy, crowded marketplace.

○中古品시장 '好況' IMF한국은행은 최근
국내 일부 시장은 경기침체로 그나마에서 시장판이 각각
중고품 시장은 규모의 확장되고 있다. <韓聯社>

(物流のダイナミズム)

山梨、そして全国へ拡がる信頼のネットワーク。

運ぶに関わるあらゆる業務のご提案。

お客様の要望にお応えし、多彩な物流を創造する

「甲府通運」のダイナミズムです。

信頼+創造力

事業内容

- 一般貨物輸送…一般、常用、専属
- 重量品輸送…取り付け、取り外し搬出業
- 入出荷請負…荷造り、梱包作業、出向代行業務
- 引越輸送…事務所・工場の移転、ご家族のお引越等
- JRコンテナ輸送取り扱い
- 一般貨物全国定期便 ●宅配便 ●航空便取り扱い
- 生命保険の募集及び損害保険代理業

甲府通運株式会社

本社 〒409-3845 山梨県中巨摩郡田富町池田3329-1
TEL.0552-73-0611 FAX.0552-73-0332
由富営業所 〒409-3845 山梨県中巨摩郡田富町池田3211-14
TEL.0552-73-5471 FAX.0552-73-6277
東京営業所 〒174-0042 東京都板橋区東坂下2-3-10
TEL.03-967-6001 FAX.03-967-6124

[ユーザー様ご紹介]
甲府通運株式会社

We CAN!
甲府通運

メルシャン株式会社様

We CAN!
甲府通運



企業ウォッチング

山梨日立建機

山梨日立建機 代表取締役

雨宮 清 氏

あめ みや きよし

●山梨日立建機データ●

昭和45年、山梨市にて事業を開始。昭和55年には同社へ本社移転。平成2年、日立建機㈱の特約店となり、山梨県全域を担当する。平成9年8月に、現地に移転。山梨日立建機と社名変更した。敷地面積3000坪。資本金9504万円。社員数70名。ボルボ・トラックジャパン㈱の山梨県代理店でもある。
〒400-0211山梨県中巨摩郡田富町上今西町564-1 TEL.0552(82)3211



人々、「生産性の低いヨーロッパのやり方が100%いいとは思いませんが、見習うべきところは確かに多いと感じます」と、雨宮社長は語る。

1千年かかるのを、50年で済ませたい

「日本は技術的にはものすごく優れているんです。コンピュータを利用した油圧技術は世界一ですしね。ただ、今まで日本が世界に貢献してきたのは経済面がほとんどでした。これからはもっと日本の技術を提供していくことが大事…」。そう言えばお金だけ出して何もしないと非難された湾岸戦争を思い出す。

「現在、世界には1億2千万個の地雷があって、すべて除去するには1千年かかるんです。でも私たちは、それを50年で済ませる機械を独自で開発しました」。

実は5年前から、地雷除去に関するボランティアを続けていたという日立建機。平成8年2月にはカンボジアのバッタンバン市郊外で地雷処理を行い、その後、整地と耕作も手伝い、田畠として農業開発ができるように導いた。

「カンボジアでは、雨期の時にドサッと地雷を流すんです。そうすれば乾期になって水が引き、草も伸びるんですけど見えなくなってしまうんですよ」と雨宮社長。ちょうど日本の国土と同じくらいの広さに埋っていると考えればいいそうだ。最近では、アフガニスタンへも機械を供与してくれないかという依頼が国連で持ち上がり、ようやく話がまとまってきたところという。「来てくれというのは助けてくれ、ということですからね。これはもう、何としても力を貸さなければと思っています」

21世紀を間近に控えた今、日立建機のボランティア活動は、まさに時代をリードする企業の姿勢そのものの気がした。



みどりの風

みどりの風は
どんな障害も乗り越える
そして心の雲を吹き飛ばす



それならいっそ、こちらから出向こう

「みどりの風」は、地域の高齢者や視覚障害者を対象に、対面朗読を行う双葉町のボランティアグループだ。会員は現在20名。双葉町の町立図書館が開催した「朗読ボランティア養成講座」へ集まつた人たちが、その土台となっている。

「講座を終了した時はすぐボランティア活動ができるわけではなかったし、対面朗読の需要も即、あったわけではないんです。でもせっかく勉強したことを見失してしまったのも残念なので、自主サークルとして続けましょう」ということになったんです」と代表の佐藤さん。ボランティアの心構えから発声方法、詩や短編小説などの読み方まで一通り学び、平成8年8月に発足した。

「本来ならば、せっかく図書館に対面朗読室があるので使いたいところなんですが、視覚障害の方はまずここまで来る手段がないんですね」確かに、家族が付き添って連れてこれるくらいなら、家族が読んであげるだろう。「それならいっそ、こちらから出向こう」という積極的な発想に切り替えた。

今は、78歳の視覚障害者のお宅へ定期的に出かける他、お年寄りたちが集

まる公民館や保険センター等にも出張、また、図書館と社会福祉協議会がタイアップして開く「高齢者のための1日図書館」でも朗読サービスを行っている。

感動してもらえることが、また感動

「高齢者のための1日図書館」は、すでに3回目を迎えるが、当初から40～60人といった定員がすぐ埋ってしまうほど人気だったといふ。



「私たちは、ほとんどが朗読を初めて学んだ者ばかりなので、まだまだなんですよ。実際読みが下手だったなど後になって思うこともありますし」とAさん。「最初の頃は清水の舞台から飛び降りるような気持ちだった」というBさんは、読後の交流も楽しめるようになり、今は得ることの方が多いと話す。Cさんは関西出身なのでイングリッシュの違いに苦痛を感じ、やめようとも考えたが「子

供に勧められ、初心に戻ってまた頑張ることにした」そうだ。

県内ではこうした対面朗読のサービスをするボランティアはめずらしいので取材が多い、というが「あまり注目されても恥ずかしいんです」と皆さんが口を揃えて言う。

しかし、「みどりの風」のメンバーほど、健やかな心を持つ人たちもなかなか少ないのではないだろうか。「感動してもらえることが、また私たちの感動」と説明していたが、心が豊かであれば感動することさえできない。ましてや他人を感動させるのは、たやすいことではないはずだ。皆さんの陰の努力に、心から敬意を表したい。

どうかこれからも対面朗読を通じて、一人でも多くの人の心に、さわやかな「風」を届けていってほしい。

[取材：原田陽子]

双葉町立図書館の「朗読講座」をきっかけに結成されたボランティアサークル。平成9年8月、発足。朗読の歌い出しの趣向からいつもさわやかな朗読を心がけたいとの想いで引用し名付けた。現在20名。月3回の研修会をしながら、お年寄りの集まる場等で活動を行っている。

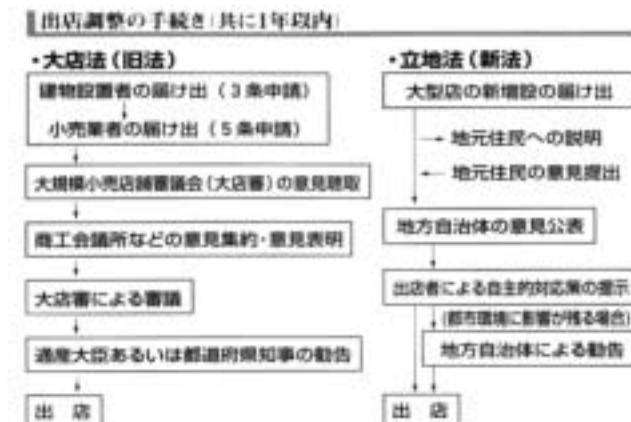
代表：佐藤光代 連絡先：双葉町立図書館（土橋）
〒407-0105 山梨県北巨摩郡双葉町下今井171
☎0561(20)3669

21世紀の街づくりへの胎動 Part1

—ポスト大店法—

青木茂樹

山梨学院大学商学部専任講師



今後、これと合わせて、建設省により地方分権の流れを踏まえた「都市計画系見直し策」が練られており、これにより商業施設の出店可能地域と不可能地域のゾーニング規制が検討されている。また、自民党により11省庁の連携で「中心市街地活性化法」が進められており、市街地を生活空間として位置づけ、地方自治体の独自性のある取り組みを支援する構想が練られている。

●なぜ、大店法が廃止されるのか？

こうした「立地法」「新都市計画」「市街地活性化法」が連動することで、地方分権化が進み、新しい街づくりが進められることになるが、こうした問題がなぜ今、取りあげられているのだろうか。1つは、コトの発端である外圧の影響だ。日本の市場は、閉鎖的であるとして、アメリカから規制の撤廃が強く求められてきた。2つめは、戦後の経済システムの崩壊である。官主導型の中央集権システムがほろびを見せてきたことが、昨今の問題からも明らかであり、民間の活力を生かすような分権システムが求められている。事実、本来、日本の国力を上げるために規制されてきた産業（金融、運輸など）が軒並み国際競争力を無くしているのに対し、規制されてこなかった産業（メーカーなど）は、今や世界企業となっていることからも、規制の中身に時代錯誤なものが多く見られるることは明らかだ。3つめに、競争環境の変化があげられる。特にモータリゼーションの進展により、人々は郊外のロードサイドの大規模な商業集積へと移行した。もはや特定地域での大規模vs中小という構団ではなく、郊外vs市街地という競争へと変化した。この火つけ役となったのがトイザラスなどの国際資本の小売業であった。それまでの日本の小売業の常識を超えた規模でロードサイドに進出し、さらには日本の商慣行を打ち破り、価格破壊を仕掛けたのである。4つめが、商工会議所を中心とした保守基盤の弱体化だ。実際に、中小小売業の経営者が今や高齢化しつつあり、一昔前のような強固な反対運動を推し進めなくなっている。既存の大店法のもとで大規模小売業が出店する際にも、地元の商業者の反対より、生活環境を脅かされる地元住民の反対が問題となっている。（次号へ続く）

早野グループ4社から 一番ホットな情報をお届けします

ISO 9001認証取得

早野組は平成10年3月6日付で品質保証の国際規格である「ISO9001」の認証を、本社・東京支店・中部支店における建築物の設計・施工・付帯サービス及び土木構造物の施工に関して取得しました。ISOは国際標準化機構の略称で、ISO9001は設計、開発、製造、据付け及び付帯サービスまでの全工程において、企業の行う品質保証や管理システムがISOの要求事項に適合しているかを、第三者の審査登録機関が審査し、企業に認証を与えるシステムです。

早野組は、①常に高品質な製品を提供、②社内組織の品質改善、③入札参加資格となる可能性があることを目的として、平成8年9月に早野社長がキックオフ宣言をしました。品質マニュアル及び規定類の作成を経て、平成9年7月1日より「真心と確かな技術で、常にお客様に満足していただける製品を提供する」を品質方針とし、品質システムの運用を開始しました。2回の内部品質監査、3回の予備審査により規定類を数回改訂し、2月17日から20日までの4日間登録審査を受け、今回の認証取得となりました。ISOの認証取得は早野組の品質システムの新しい第一歩であり、今後の維持活動こそ大切になってきます。今後とも社員の教育・訓練、規定類の見直し等を行っていきながらISOを定着させ、常にお客様に満足していただける製品を提供するために、全社一丸となって取組んでまいります。

(株)早野組
本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL0552-35-1111

トヨタビスタ本社新装オープン

昨年より工事中でありました本社が、新装オープンいたしました。ご来店のお客様に大変ご迷惑をかけておりましたが、展示ショールームも広く・明るい快適空間で喜んでいただけたことと思います。

ショールームには話題の新車を常時展示し、商談スペースも広く確保されております。また、道路側からのデザインも、一面ガラスを取り入れて好感度な雰囲気で好評です。駐車場も広く、便利で安心してご来店いただけます。

いよいよ行楽シーズン、ドライブに最適な季節になりました。愛車に関するご相談は、ぜひビスタ店でどうぞ。



トヨタビスタ山梨(株)
本社：甲府市朝氣3丁目10-21 TEL0552-32-5511

品質システム登録証授与式
(右はJQAの佐久間理事長)



24時間全館健康換気システム「ピュア24」

「ピュア24」は、世界初の機能を持つ光清浄換気扇「エアナビ」、トイレ換気扇、浴室換気扇、室内換気扇によって構成される、「高気密・高断熱の不自然さを克服する」空気技術です。

世界初の光清浄換気扇「エアナビ」は、汚れた空気を熱交換しながら、しかも温度変化を抑えながら空気清浄しますので、冷暖房費が節約出来ます。春の花粉や夏の不快な熱気を排除する機能も備えた、オールシーズン型という換気扇のタイプを確立しています。省エネにも対応し、一年中快適な空気環境を経済的に保つことができます。

ピュア24 浴室換気扇・トイレ換気扇は、タイマーや人感センサー付で、においや湿気の発生する水廻りから集中排気します。

ピュア24 室内換気扇は、穏やかな気流を創ることで新鮮な空気を家中に供給します。

排熱換気扇は、温度センサースイッチ付で、2階の天井付近にたまつた熱気を排出します。

エネルギーのムダを出来る限り抑えた、トヨタ独自の換気システム「ピュア24」。住まい全体に、快適で健康な空気環境をつくりだします。

トヨタホーム山梨(株)
本社：中巨摩郡御所町河西1043 TEL0552-75-1234 FAX0552-75-7806

名鉄運輸(株) 宮地社長就任

当社は昭和27年以来、名鉄運輸(株)と業務提携し、甲府営業所の代理業務を行ってきました。これにより路線、区域、宅配の物量を年々増大することができました。しかし、バブル崩壊後物量が伸び悩み、また競争が激化する一方、運賃の下落をおこし業績の悪化が顕著になっています。

そんな中、去る2月26日名鉄運輸(株)の取締役会で役付取締役の変更がありました。代表取締役会長片山桂一様(昇任)、代表取締役社長宮地隆二様(昇任)が就任されました。就任にあたり宮地社長は、21世紀に向け、また力強く生き抜くために3つのキーワードを話されました。

1.お客様に信頼される名鉄運輸…お客様に信頼していただける輸送品質とサービス水準を確保するために、現状の問題点にあらゆる角度からメスを入れ、その改善に努力を注ぐ。

2.強靭な経営体質の名鉄運輸…新しい商品の開発や提案営業などに必要な企画力と販売力を強化して、厳しい事業環境の中でも利益を出せる、経営体質への改革と改善を進める。

3.明日の夢を語れる名鉄運輸…無駄な装備をスクラップする一方で、次の世代に受け継ぐ新しい戦力の設備を積極的に進める。

今後運送業界を取り巻く環境は、益々厳しい情況になって行くと思われます。お客様のニーズをつかみ、それに適応できる組織作りを進め、質的向上を計るべく努力を致します。

甲府通運(株)
本社：中巨摩郡田富町流連4地3329-1 TEL0552-73-0611

富士川通舟を並崎まで延長し
運河疎水事業を興そうと
徳島堰の開鑿を計画した希有の人物

徳島平左衛門

(とくしまへいざえもん)

私がとくにこの人物に興味をもったのは、明野村誌の編纂監修で、朝穂堰や両村堰、桶無堰の歴史探求を手がけたことがきっかけであった。またその同時に郷土史の大先輩の三枝善衛氏が朝穂堰の史誌の編纂中で、古文書の分類整理や解説などで度々相談を受けたことが、強い引き金になったのである。またとくに興味をそそられたのは、穗坂古堰を掘った杉村七郎右衛門や、桶無堰を掘った野村久左衛門宗貞らが、いずれも江戸或いは大阪等から下ってきた浪士達であって、徳島堰を掘った徳島平左衛門もまた、江戸から下ってきた浪士だったと知ったことが大きかった。お互いに関連があると見たのである。

つまり大局的に観察すれば、南蛮貿易で巨利をつかんだ角倉了以が、さらに新規事業を計画したように、たまたま戦国時代が終焉した江戸初期、その平和を求める世相の中で地方農村社会は、より生活の潤沢さを求めて土木開発事業が盛んに行なわれるような時代に入っていた。その開発事業計画というのにはまず新田をつくることに置かれ、それには堰の開鑿と溜池を造ったり、用水の確保、川除けの堤防づくりなどに主眼が置かれていた。

しかし、その土木開発事業の出来る技術者は村の中にはなかなか居ない。一方その重大な歴史的変革期に、才能が充分ありながら仕官の道を断たれた廃藩の浪士達がたくさんおり、彼等はやむ



徳島平左衛門の像（白根町了円寺）
この像はまだ新しく、昭和30年頃奉納された

を得ず生活の糧を求めて地方に分散してきていたから、ちょうどうまくその目的と意志が合体することになった。

もちろん先に動いたのは浪士達である。彼等はそうした技術に堪能なものが多、先を見る目も鋭い。そこですぐ當時地方農村に澎湃と湧き起こったその

上野 晴朗

うえの はるの
1923年山梨市生まれ。歴史家・作家。県立図書館郷土資料室を経て67年から文筆活動に入る。著書に「甲斐武田氏」等多数

土木事業熱に着目し、自らの生活の糧を求めるためにも一石二鳥と、その才覚を發揮して進んで事業に参画するか、或いは自ら計画案を提出して堰開発に積極的に乗り出す雰囲気が、自然と生まれてきていたのである。

徳島平左衛門の経歴は不明な点も多く、江戸深川の人とも美濃妻木家の浪士とも、また阿波徳島の人で大阪の残党などともいう。名は俊正とも、また秀典と書かれたものもある。

『徳島堰掘渡由来書』によると、寛文元年(1661)、江戸表より徳島平左衛門という者が来て、堰筋を見立て発鑿を願い出たとある。しかも同4年に差し出した一札をみると、堰筋は巨摩郡上円井から同郡鯨沢まで、幅二間、長さ七里余にわたって掘り渡したいとしているから、まさにその着眼は船を通す疎水計画そのものといつてよく、当時としては目を見張るような一大工事計画を立案したのであった。また翌寛文5年(1665)にはその工事に着手している。

いまこの立案にそって現地を歩いてみると、茅ヶ岳山麓の堰史のトンネルのような隘路はほとんどなく、幅二間の堰といえど、明らかに並崎方面から鯨沢にいたる、舟を通す疎水計画だった様相



徳島堰の流れは雄大で、日本三大堰の一つに数えられている



徳島平左衛門の墓所
(並崎妙淨寺)
左が妙淨が建てた夫の供養墓、右が妙淨の墓



並崎市円野にある徳島堰の取水口
水源は面無川の水である

が偲ばれる。

それだけにその発想を分析してみると、角倉了以の治水事業に共通するものがあることに気付く。富士川の改修工事など河川交通の便利さを追求し、利潤を上げることが最終目的であったが、おそらく徳島平左衛門の場合も、慶長以来のこうした開発や村起こし、新田開発の気運に刺激されて甲州に乗り込んできたのではないかと思われる。

ところがちょうどこの時期、寛文元年に徳川家光の三男綱重が25万石の甲府藩を成立させてはいり、この甲府藩の政治工作と干渉の結果、せっかく平左衛門が夢と熱意と希望をもって進めていた疎水工事は、甲府藩の城代戸田國防守がこれを受けつぐ形となつて、平左衛門の手から離れる結果となつた。

これには複雑な裏があった。元来この富士川通舟濫觴は角倉了以に始まるけれども、徳島堰の工事着手までにすでに半世紀以上経過しており、それにともなって鯨沢河岸等三河岸の運営も次第に強化され、公認の問屋、船着場組織の権力がすでに磐石なものを作りていったから、当然のように並崎まで通舟のルートが伸びることは、利権もからまり、繁

栄が奪われるといった危機感をともなつて、堰だけならよいが通舟は猛反対という声が上がってしまったのである。結局この雄大な計画はたちまち暗礁に乗り上げてしまい、その結果は用水のための堰だけなら反対しないといった結論を得て、甲府藩が事業を引きつき、一方平左衛門の方は、途中で事業を諦めて江戸へ去ってしまった。甲府藩では人選の結果、有野村の矢崎又右衛門に命じて堰工事を再開、寛文11年(1671)によく用水堰として完成をみた。その延長線17キロ余におよび、灌漑面積は500ヘクタールに及んでいる。また用水の確保によって新しい村として曲輪田新田、飯野新田等が生まれている。工事の完成をみたので幕府では徳島平左衛門の初案の功をたたえて、堰名を「徳島堰」と名付け、また平左衛門が費やした工費4千両余も賠償している。

それでも平左衛門が夢見た疎水通舟計画が、地域の利害がからんで途中で変更になってしまったことは惜しまれる。とくにその後ずっと続く富士川舟運の御回米のことなど考慮すると、鯨沢河岸まで貢米を運んでいくことは、八ヶ岳・茅ヶ岳、あるいは武川筋の農民にとっては、大変な労苦がともなうものであ

った。鯨沢まで10里以上という村が沢山あった。そのため幕末に入ってやっと御回米だけの仮河岸が並崎に設けられるようになったけれども、その塗炭の苦しみを思うと、寛文年間に平左衛門が計画していた灌漑と通舟の疎水の夢が実現していたなら、どんなにかその筋の村々が助かったろうにと思わずにはいられない。

徳島平左衛門は大変に信心深く、工事に取りかかろうとした寛文4年に、まず並崎の堰取水口の東に妙淨寺という寺を開基し、七面大明神を安置して工事の守護神として祀ったという。またさらに白根町の飯野新田にも了円寺を建立し、七面天女を勧請して工事の完成を祈願している。しかし工事半ばにしてやむを得ず江戸に去ったため、村人の云い伝えでは、現地にとどまったその妻妙淨が、夫の死後、その墓を同時に建立したという。また白根町の了円寺にも、寛政八年に村人が建立した墓がある。

ボクの美術品観察日記 9

アングルのドキュメンタリー・絵画は新しい

山本 育夫

やまもと いくお
ミュージアム・マガジンDOME（チーム）／美術品観察AW
(エイ・ザ・ブリュ)／美術批評・展覧会批評誌LR (エル・アール) 編集長 週刊朝日に展覧会批評連載中

アングルの描いた フツーの女性

アングルの作品で有名なのはやっぱり「泉」でしょうねえ。「泉」というタイトル名でわからなくとも図版を見れば、ああ、これ、知ってる、と思った読者は多いことだろう(図版1)。

どういう理由かは知らないけれど、昔の美術の教科書には、必ず、といっていいほど「泉」が掲載されていた。

この「泉」、ニンフや女神として描かれてはいるけれど、見てわかるように、なんなく近所にいる少女が女神風にポーズしているとしか見えない。そこが、アングルの新しさなのである。画題は聖書に束縛されてはいるけれども、もうこのころになると、内実は女性の裸体を描いているという感じが、画面からあふれだしてしまっている。

ところで、アングルは、「泉」よりも、もっと「フツー」の裸体を描いている。それが、「ヴァルパンサンの浴女」(図版2)である。

段取りの悪い女性？

こちらの女性はもうどう考へても、

フツーの女性の生活の一場面といった風情。どこでそう感じるのかというと、まず、髪を束ねているタオル？ だらう(図版3)。髪を束ねていて、裸でいる。といえば、これはもう、お風呂に入るとこまでしかないでしょう。それなのに、どうしてこの女性は、なんとなく時間つぶしの様子でベッドの端なんかに腰掛けているんだろう？ 風邪を引いてしまうではないか。そんな心配が頭をもたげてくる。時間つぶしの感じは、足のしぐさでわかる。すっかり気を抜いて

いるので、体に巻いていたものだらう。しかしねえ、いくらなんでもベッドのすぐ脇に浴槽があるというのも奇妙ですねえ。それに、画面左端の、いかにも今取りつけたばかりのようなカーテン(図版7)、さらには、ベッドの向こうの、これまた假にかけられたような白い布(図版8)。

どれもこれも、芝居じみていて、しかもその「事実」を「観客(つまりは僕ら)」に隠そうともしていない。

記録された、リアル

ははん、そうか。と、ここまでくればこの絵の事実が理解されてくる。つまりこういうことなのではないか。この女性は、浴女というテーマでモデルを務めている女性なのだ。だから、この女性を隠すための書き割りカーテンが周囲には張り巡らされている。

それでもモデルをしていないときは全身を隠せるシーツをつけているのだが、この絵の場面はしばらくのモデル休憩の時間。その何気ないポーズを、アングルがソット盗み見しているという「風情」。この、「盗み見」の「風情」というところがポイントなのだ。そこに、

ジャン・アングル(1780-1867)
『泉』「ヴァルパンサンの浴女」



図版1



図版2



図版3



図版4



図版5



図版6



図版7



図版8

見つめ直そう、“ワイン”との関係

赤ワインは動脈硬化を防ぐという論文がもととなり、健康志向の女性たちを中心に若い世代に広まったワインブーム。また、規制緩和の影響を受けて、スーパーやコンビニなどでも1本(720ml)500円を切るワインや、安い輸入ワインが店頭に並ぶようになったことも、ブームに一役買ったようです。インターネットによる通販も活発に行われてますし、米国の人気俳優、ブランド・ピットが出演した映画「ブランド&ワイン」もつくられ、話題になりました。

圧倒的にぎわいを見せたブームですが、ここでちょっと立ち止まって、もう一度見直してみませんか、私たちとワインとの関係。

「太陽のない日」を過ごしていた!

「食事にワインのない日は太陽のない日のようなもの」というのは、フランスの古い諺。パリでは大学の学生食堂の定食でさえ、水代わりにグラスワインが付いてくると聞きました。生活の中に当たり前にワインが存在する辺り、いかにも本國らしいですよね。

ところで日本はどうでしょう。第5次ワインブームと呼ばれる今回のブーム。昔ではおびただしい数の関連書籍が出版され、都内ではワインスクールの人気が沸騰。熱い視線を浴びるソムリエに近づこうと、流通・小売業者や愛好家たちの間では、ワイ

ンアドバイザーやワインエキスパートといった新しい資格にチャレンジする人も増えています。

アロマがどうの、ブーケがどうのと、グラス片手に語れれば確かに格好いいですが、それだけではまた一過性のブームで終わってしまう気がして寂しい。というより、日本人で、単に熟しやすく冷めやすい人種なのかと思えてなりません。前掲の言葉を語弊を承知であえて顔面通りに言い換れば、私たちはいずれまた、太陽(ワイン)のない日々を迎えるはめになってしまのでしょうか。



ここ数年、続いてきたワインブーム

ブームに熱を上げるのは卒業しよう

そろそろこの辺で、ブームは終わりにしませんか。つまり、ただの流行としてではなく、ワインを、半永久的に生活の中に漫透させることができたらと思うんです。それにはワインとの付き合い方をもっと深



めること。チーズと一緒に味わうのも一つの手ですね。チーズはもちろんナチュラルチーズ。ワイン1本でもチーズが3種類あれば4通りの味が楽しめますし、チーズを一口含んだ後にワインを飲んだ時のあの絶妙な味覚は、一度体験したらきっとやみつきになるはずです。基本的に同じ土地で作られたワインとチーズは相性がいいと言われていますが、いろいろな組合せを試してみるのも面白いですよ。

ワインは、どちらかと言えば一人で飲むより複数で飲む方が似合うお酒。また、ガブ飲みするよりも、じっくり味わう方が適したお酒です。お酒の中でもとりわけスマートで賛否な雰囲気を持つワインは、その芳醇さを味わうと同時にワインがもたらす演出効果、それ自体を堪能したいもの。気軽に飲めるようになった今こそ、ワインを通して食事のあり方も見つめ直してみませんか。ほら、そう言えば日本にもありますよね、「一期一会」という言葉が。“どんな会食も一生に一度の事と心得て、そのいとこを大切に過ごそう”という茶の湯の精神は、どこかワインの世界に通じているように思います。

家族や友人と、愛する人と、共に食事をとれる喜びを分かち合い、お互いを祝福する乾杯シーンにこそ、最もふさわしいお酒、ワイン。嬉しいことに桜の開花もうじきです。さあ今年はぜひ、お気に入りのワインとチーズを抱えて花見の宴へ出かけるとしましょう。

こんなところに山梨 思いがけない場面で ふるさと再発見

山梨は寿司屋の数において全国有数な土地柄である。県下の何処といわず、山間部といわず、車の往来の激しい道路沿いといわず店がある。町内の寿司屋は無尽に使われ庶民の「場」をつくり、噂話の「種」も日々新鮮である。流行の回転寿司も人気で、県民の寿司好きをいかんなく示し「こんなところに山梨」の再発見をさせてくれる。

江戸の町にも寿司屋は多く、蕎麦屋の倍はあったという。寿司が盛んになったのは天明の飢饉の頃からで、往来に屋台が出て、いろいろなものを食わせるようになり、寿司の立食いもはじまったという。この屋台というのは江戸の男達の生活とも関係があった。鳶の者でも、大工、左官にしろ、一時に腹一杯食ってしまったら身動きがとれず、仕事になら

ない。しかし、労働はきつく、食わなければ身体がもたない。そこで食うものは錢を惜しまず、栄養のあるものを、しかも、少しずつ間食するという習慣がついていった。

この間食には、寿司はもっとも都合が

海なし県の寿司の妙 全国有数な寿司屋の数 江戸前のはじまりは どうして鮪が代表格に

よく、コハダの寿司などが早くから好まれたという。さて寿司の種といえば今や鮪が欠かせないが、この鮪の登場には事情があった。鮪はもともと遠海で捕れるものだったが、ある時期、どういう潮流の加減か近海でたくさん捕れるようになった。伊豆、相模方面で一日一万尾以

上もの豊漁となったから、値段も安くなり、安いから世間に広まることになった。困って肥料にしたほどであるが、このとき知恵のある奴が、鮪の一一番良いところを取って寿司に使うことを思い立った。これが鮪寿司の誕生であるという。

もともと上等な料理には白い刺身が使われ、赤い刺身は評価が低かった。だが、鮪寿司の誕生の動機はいつか忘れ去られ、その後、鮪は寿司の代表格へと番付を上げていって、今日に至っている。白い飯の上に赤くのった鮪は、色どりのよさもあり、食欲をそそるのかもしれない。

ところで、海のない山梨県らしい寿司屋のあることを知った。市川大門の老舗では、季節の山の幸を探り、味つけを工夫し、これを種にして食わせる。まさかの想いで食べてみたが、これは人に語ってしかるべき味わいだった。寿司ひとつにも「こんなところに山梨」の再発見がある。(石)

参考資料：三田村鷹魚「鳶魚江戸文庫」
中央公論社

Book 自然との付き合い、親しみ方 「江戸の園芸」



江戸の町は豊かな緑と水に恵まれた世界有数な都市だった。人はこの自然と風土のもとで「粹」や「通」といった感覚を養い「風流」という日本独自の文化を生み出してきた。その代表的なものがツバキ、ツツジなどの園芸の流行であり、梅、桜、そして菊へと続く花見だった。

そうしたテーマに沿って、本書は江戸の人々の自然への探求心、好奇心を「園芸」「行楽」を通して明らかにしていく。花見の項では、寺社への参詣のかたちではじまった花見が、やがて桜を見ながら歌や俳句を作る觀桜を盛んにし、また集団で桜の下で飲み食いをし、歌ったり踊ったりというのが多くなっていったという

変遷や、さらには、夜桜で一通り桜を楽しむとその後は吉原へ繰り出したというスタイルも紹介して愉快だ。

江戸の人々の自然観にも興味がひかる。江戸の人々は植物、昆虫、鳥獣そして人間は、生命として何ら差がなく、循環しているという認識があったという。そしてこの世にあるものにはすべて魂が宿っていたと信じ、すべてのものが人間と結びついで、一体化していると受け止めていたという。こうした視点は、万物から魂を奪い、單に物としてしか世界を見なくなってしまった今日の人間を説く批判する力に満ちている。(川)

筑摩書房 ¥ 660

滝を見るハイキング

vol.4 小菅川 雄滝

写真と文 上野 嶽



2条に分かれて落ちる雄滝

小菅川は、大菩薩峠の西面を水源とし、小菅村の中央部を流れて奥多摩湖に注ぐ清流である。

流域は東京都の水源涵養林として保護されているため、森林は豊かであり、新緑、紅葉の美しさはいうまでもない。

そして、ここに紹介する本流の雄滝や、支流の今倉沢にある白糸の滝など、名勝にもこと欠かない。

ただ甲府方面からだと、同じ県内とはいっても遠かな地だ。車で行っても小菅村の中心部までかなり時間がかかる。①柳沢峠を越えて青梅街道（国道411号）を丹波まで下り、県道で今川峠を越えて入る。②大月から国道139号で松姫峠を越える。③上野原から県道丹波山線を北上し、鶴峠を越えて入る。以上3通りが選べるが、いずれも2時間近くを要する行程である。

小菅村の中心部に入ってしまえば、目的の滝までいくらくらいかからない。役場前の国道から西に向かう。橋立地区を通過すると未舗装の林道となる。左岸の高みを行くほど平坦な林道を車でしばらく進むと、右手に白糸の滝入口の標識がある。

整備された遊歩道

を少し歩けば、水量こそ少ないが落差

25mという白糸の滝が現われる。新緑の中に、白い糸を引くよう

に真っすぐ落ちてい

て見事だ。

雄滝への入口は、林道に戻って車

で7分。標識の所からコ

スに入り、県

森林100選のシオジ林を過ぎると、太鼓

型の木橋を渡る。右岸を行けばすぐに

雄滝の見える河原に着く。落差は10m

もないくらいだが、二つに割れて落ちる

様が実にいい。深い緑の中なので、そ



水源から林の一部であるシオジ林



雄滝のいわれなどを紹介する案内板

【参考タイム】
国道139号（車20分）
↓
雄滝入口（徒歩12分）
↓
雄滝

甲府通運前史を訪ねる（10）

（甲府通運のページ）

温故知新 古きを識って新たな飛躍
神奈川から山梨へ
創設者 早野金蔵の活躍

林 陽一郎

はやし よういちろう
山梨県教育委員会・歴史編集文化財担当

株式会社早野組、トヨタビスタ山梨

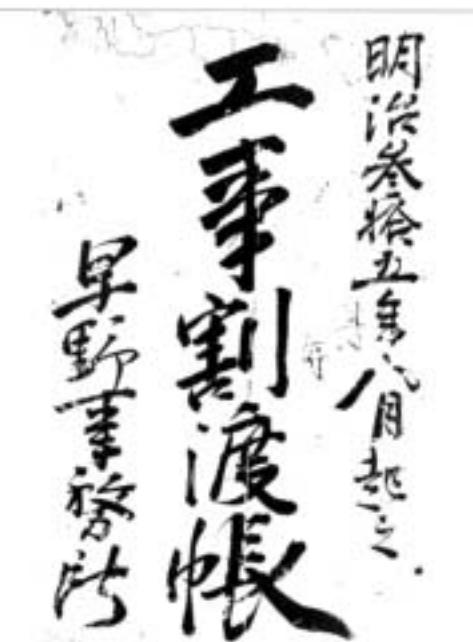
株式会社、トヨタホーム山梨株式会社、甲府通運株式会社、そして丸二ビル株式会社の五企業体によって構成される、早野グループの主幹となっている早野組の創業は、明治20年（1887）のことであり、したがって早野組の歴史は110年続いている。明治20年という年を郷土史年表でみると、土木県令といわれた山梨県知事藤村紫朗が愛媛県に転出、県会議事堂甲府錦町に落成という様なことがみえる。

創設者早野金蔵は先祖伝来の神奈川県足柄下郡下中村の地を離れて夫人の出身地である山梨へ移り住むこととなるが、その原因是銀行業の失敗によるともいわれているが詳細はわからない。昭和10年（1935）7月号の大衆雑誌キングには「大成功報恩美談 情けの三円」（近藤兼弘著）と題して金蔵が故郷を離れる際に地元の岸惣吉から借りた金を功成り返還するとともに新築の家を贈る美談が記されているが、それには「（金蔵）その後間もなく、山梨県甲府で当代師一と諱はれた土木請負業川上組の親分に拾はれたのである（中略）やがて数年後の或夏、鉄道敷設の大工事を経て醜い出された紛争のため、

若主人が非業の再婚を遂げたにも拘せず、老主人川上氏を守って活躍、よく報復の美談を全うしたところから遂に川上氏の死後、若主人に代って事業遺産の一切を譲られ、ここに名実共に今大盛早野の基礎を確立することとなったのである。「甲府の早野組って云やア、当時飛び鳥も落す勢ひだぜ。」篠子トンネルの開通が明治35年（1902）、金蔵が故郷を離れたのは明治10年代末頃と推定される。また「山梨県建設業協会史」には〈早野金蔵のプロフィール〉と

して、「明治25年国鉄中央線開設工事の仕立人として来県」との記録があり、キングの記事とは相違があるが、いずれにしても山梨県土木業界において功成り名遂げた実力者であったことに相違はない。

現在、早野家に所蔵されている明治35年8月の工事割渡帳（写真）には「早野事務所」の標記があって、篠子トンネルの工事も完成し早野組の基礎が確立された様子がうかがえる。内容は、早野組が受注した工事を各下請工事者に渡した記録であるが、鉄道関連工事として「甲府停車場工事、同道路修繕工事、



浅川駅（現高尾駅）及烏沢駅旅客乗降場、石和駅工事、日野春停車場給水台建設、塩山停車場荷物ホーム用砂利敷、龍王停車場工事等があげられる。このうちの日野春停車場給水塔は、越崎駅から七里ヶ岩の急勾配を昇り続けた蒸気機関車が水を補充するために設置された給水塔で、これは鉄道記念物として現在も日野春駅の西端に保存されている。またその他に愛宕山下にある英和女学校の敷地350坪の工事や同校井上堀、下水工事の施工などが記録されている。鉄道工事の早野組から道路、橋梁工事へと拡大する年でもあった。

乗り比べてこそ 実感できた
ハイエース・バンの
秀でたパワーと使いやすさ

有限会社 ミシマソフトドリンク

天井高も奥行きも幅もある大きな倉庫の奥に、ジュースの詰まったダンボール箱が整然と積み重なっている。今回取材でお話を伺ったのは、その隣にある事務所だった。

有限会社ミシマソフトドリンク。社長の三島さんは、昭和50年まで富士コカ・コーラボトリングに勤めていたが、脱サラを考えて退職、吉田特機としてタバコの自動販売機を取り扱う仕事に就いた。しかし、喫煙者の減少にともないタバコの売り上げが年々伸び悩んできたため、平成4年、業務内容を缶ジュースの自販機専門に転向。社名も新たに、

有限会社ミシマソフトドリンクと変えた。現在、会社で使用している車は全部で10台。そのうち最近購入したのが、ハイエースのバンだ。「これまで知り合いでいたこともあって、他社の車が多くたんですが、今回、身内がトヨタビスマスさんに入社しましてね」と、三島社長。「実際に乗り比べてみると、パワーもあるし、使い勝手が断然違うものですね」と率直な感想をもらす。ハイエース・バンのフラットで広い荷室は、積み降ろしをぐんと楽にスムーズにさせてくれたという。また冬は雪の多い土地柄、やはり四駆でないと不便とも話す。



〒403-0005 富士吉田市上吉田1087-1
TEL 0555-23-3404



子供たちの笑顔が灯る
リビング&ダイニングに
温かい“家族の肖像”をみた

輿石 光親さん宅（須玉町）



玄関へ入るとさっそく、幼稚園年少組の沙耶ちゃんが「こんばんわ」とかわいい声で出迎えてくれた。リビングのTVには「ハクション大魔王」が映り、その隣で小学1年の凌君がしきりにヨーヨーをいじっている。ほのぼのとした雰囲気が家中に漂う、輿石さんのお宅である。

トヨタホームの「メレーゼ」。民間車検場を営む(有)輿石モーターズで、常々車に触れている輿石さんは、トヨタ製品への信頼感が圧倒的に大きいようだ。

「家は車と違って、簡単に買い換えることはできませんからね。ユニット工法

のトヨタホームさんが、一番安心できると思いました」。昨年7月に完成。それまで住んでいた団地から新しいマイホームに家族4人で移ってきた。1階にリビング、ダイニング、和室にバス、トイレ。2階には子供部屋と寝室、それに輿石さん専用の部屋もある。全部で50坪。「同級生にも家を新築した者が何人かいるんですが、みんな70坪、100坪という具合に大きいんですよね」と輿石さん。皆、土地自体に余裕があるからだろうが、そんな彼等に影響されて「せめてウチもりビングとダイニングは広くとりたい」と考

えたという。

「上下のバランスを考えながら、間取りを詰めていくのが難しかった」と振り返る。廊下もつけたい、納戸もつけたい、できれば縁側もつけて、ベランダも広くしたい。細かい要望を一つ一つクリアして着工間際によく落ち着いた最終面。実際に仕上がってみて「メリットは充分ありました」と輿石さん。

奥様も「子供がまだ小さいので、顔をみながら仕事ができるようにと対面式のL型キッチンを選んだんです。子供部屋も布団を干しやすいように、両方からベランダへ出られるようにしたんですよ」と話す。この辺りではご近所のつきあいも大切、家に集まる機会も多いので、2間続きの和室をとったのもそのためだ。人のつながりを大切にする輿石さんは「お得意様の中にも業者さんがたくさんいましたね、結構力になっていただきましたよ」と言う。天井に取り付けられたシーリングファンがどこかアンティークっぽくてお洒落だ。明るいブラウンで統一された木製のインテリアも、フローリングとよく調和している。ご両親の愛に包まれて、子供たちも幸せを感じているに違いない。輿石家のリビングで、温かい家族の肖像をみたひとときだった。



会いたい人から 会いたい人へ
知りたいことから 知りたいことへ
リレーでつなぐエッセイ

シタマチへ行く

福岡 哲司

ふくおか てつじ

甲府一高教諭 山梨文芸協会会員



シタマチへ行く—子どもの僕にとつて、どんなに魅力的なことばつたろう。前に僕が座り、荷台に三つ年上の叔父が乗って、祖父の自転車は朝日町を下つて行く。下町は仲見世や銀座、桜町、柳町、オリオン通りであり、大神さん、正の木さん、ゑびす講の脇わいだった。タケキンのランドセルの匂い、早川ペーカリーのアイスクリームの甘い香り、キリン館のハヤシライスの甘く焦げた味、甲斐綱屋の詰め襟の清々しい手触りだった。

石燈のガード下を再び朝日町に向かってくぐり抜ける時、今度、下町を訪れるのはいつだろう、と僕はいつも切なかつた。

歩いて帰ろうものなら、水門町の天下堂の前で大の字になつて、僕は本をせがんだ。が、たいてい大人たちの右手と左手にぶら下げられて、ガードの方に曲がってしまうのだった。朝日町のアサカワでも恭しくアイスクリームが出てきたしハヤシライスもあって、馴染みが深かった。が、それゆえに朝日町は下町ではなかった。そこは住んでいた塙部と下町とをつなぐ商店街でしかない。下

町は華やかでハイカラで豊雜で、いい香りの混じり合つた、特別な〈町〉だった。

住んでいる処を、僕は〈町〉だと思ったことはない。おそらく大人たちもそうだったろうと思う。だいいち、地名も「美咲二丁目」などという照れくさいものではなく、「西久保」と田舎じみていた。

陸軍病院だった国立病院の裏のカラタチの怪は、気が減入るほど陰気だった。小学校は四十九連隊の跡に建つていて、弾薬庫の跡の広い三和土はローラースケートに都合が好かつた。浴場の釜がまだ残つていて、炊き口からもぐり込んで、僕らは野良猫のように遊んだ。上下の校庭の境に防空壕が口を開けていて、ぬるぬるした壁に△×△のような落書きがあつたり、アベックが抱き合つたりした。残っていた幾棟もの兵舎は新制大学の寮や戦災者のアパートになつていて、電信柱を流して遊んだり、ノリちゃんが「地方病」に罹った相川を竜雲橋で涉るとレンベイ(練兵)場が広がつていて。宅地造成をしていたのか、土壘を崩すトロッコは恰好の遊具だった。麦の穂を摘

んで口のなかでくちゃくちゃ噛んでガムにしたり、ヒバリの巣を探し歩いた。落とした錫杖を捲し廻つた挙げ句、兵舎の便所で首を吊つた兵士の幽霊話が、休み時間の僕らの話題だった。〈街〉でも〈町〉でもなかつた。彼方の下町は不意に浮かんてくる、夢のような気がした。

住んでいる処から、途中の道のりがすっぽり抜けて、赤や黄の提灯や電飾、旗に肩を撫でられながら往来する下町の雑踏が、いきなり頭の中に立ち上がつてくる。駅前までは辿れる。しかし、そこから先はもういけない。どの角を曲がればどんな町並みが開けるのか、曖昧模糊としていた。遠くから通つて来る友人が多かつたから、オシロ(城)が放課後の集合場所だったが、頭の中のシュミレーションはそこまでだ。

行動範囲が狭かった、というか必要なつたのだ。空間にも役割があつて、自分の在るべき時と場合とがあつたようだ。今や、迷路をくぐり抜けて、いきなり下町に至ることもなくなつた。意図して、踏み迷う路を、僕は探し続けている。遠い遠い歴史的なシタマチを想いながら。

百の言葉よりも、沈黙の背中
苦しみに負けないキミのお父さんは
みんなの誇りだよ

トヨタピスト山梨県南店店長 小林達也さん(甲府市)37歳



極楽気分と、それからの日々

先の長野オリンピックでは、ジャンプの原田選手が一躍注目を集めたが、世の中には同じようにハンデを抱えつつ頑張っている人がいる。陰で地道に努力しているこんな人にこそ、表彰台に登つてもらいたい。

昨年の4月に本社から移動。間もなくトヨタ60周年の招待旅行に向けて、グループごとに全国レベルで売上を競う期間へ突入。3ヵ月で44台。県南店は目標台数を100%越えて、めでたく最優秀賞に選ばれた。

「慣れない土地へ来て、いきなり大きな賞をいただいて本当に感謝しています」と小林さん。8月半ばには4泊6日のハワイ旅行へ奥様と出かけた。ヘリコプターで蘭の花をまく歓迎に、プール貸し切りの屋外パーティ、ディナーショー等々。「さすがにメーカーが主催しただけあって、規模が大きく、内容も充実していました」。

南国のビーチで極楽気分を味わつたのもつかの間、帰国した小林さんを待ち受けっていたのはまさに地獄のような日々だった。ヘルニアで足が痛み出したのだ。「10月の末にはもうほとん

ど、座れない、立てない状態でした。ですが11月の初旬には大きいイベントがありましたので、痛み止めを打ちながらとにかくその数日間だけは乗り越えようとした」。



笑顔で語る小林さん

息子に何と応えたらいいか

痛みもピークに達した頃“今ここで入院することはできない”と自分にむち打つて出勤した小林店長。無事、手術が終わった後も1cmほどの段差がま

たげない状態だったという。「病気になって初めて、動けない人の辛さを感じました」。リハビリにはまだ通つてはいるが、なかなか時間がとれずに、うっかり何週間も行かずじまいになつてしまふらしい。

背が高くてひょろりとしている小林さんに教えられたのは、本物の男の強さ。腕力や風貌だけで、その人の底力まで語るのは間違つた。責任感を抱き、ただひたむきに自分の使命を果たす姿をみて、恐らく周りの社員やお客様もついてくれるのだろう。

最近よく小学生になった上の息子さんから「どうして僕のお父さんは遊んでくれないの? 運動会に来てくれないの?」と聞かれ返答に困るという。でも、きっと息子さんが大きくなつた時に分かってくれるはず。人生には男として踏ん張らなければならない時もあるんだよ、とその後ろ姿で応えてあげてほしい。

心を痛めつつ、体さえも痛めつつ、なお打ち勝つ頑張る小林さん。目に見えないが、どっしりと重い金メダルをみんなを代表してその首に掛けたい。勇気をどうもありがとう。

[取材: 原田陽子]

おしゃれ

ブランド&ジュエリー
グランパーク Love Love

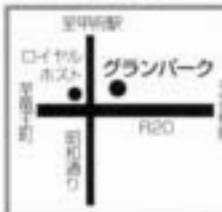


桑原店長とスタッフの皆さん

営業時間 10:00~21:00

定休日 月に1日

所在地 甲府市国母5-1-8-1
グランパーク本館2F
TEL 0552-23-6281



たべる

(株)甲州葡萄酒本舗



営業時間 11:00~16:00

定休日 土・日曜、祭日
(ただし8~10月は無休)

所在地 東山梨郡勝沼町勝沼2842
TEL 0553-44-2003



葡萄の個性を大切にした こだわりの自然製法、シャンモリワイン

昭和48年に創業した(株)甲州葡萄酒が、昨年9月にオーブンさせたばかりの新しい店舗。銘柄・シャンモリの名は、優れた国産ワインとして通なら一度とならず耳にしたことがあるはず。破碎した葡萄を圧搾し、そのままストレートに発酵させるのが、シャンモリ流。果汁を過剰に処理しすぎると葡萄本来の個性(アロマ)が消えてしまうからだ。

甲州なら甲州、デラならデラの個性をそのままに引き出す自然製法は、味も香りもじつにナチュラル。ワインブームにともなって、赤ワインを求める女性客が跡を絶たないが、「ぜひ白の美味しさも知っていただきたい」と八巻工場長。

売店には500円から2000円まで、赤・白・ロゼと自慢のワインがそろっている。おすすめは樽熟カルベネ(赤・720ml 1500円)や樽熟シャルドネ(白・720ml 1500円)に、認証甲州(白甘口・720ml 2000円)。1500円以上の価格なら、ワイン本来の味を充分堪能することができるという。直売りはもちろん、瓶詰め等の見学コーナーもあるので、気軽に訪ねてみよう。

あれもこれもと欲しくなってしまう グランパークで話題のショップ

(株)セキドが関東近県に店舗展開させているこの「Love Love」は、ブランド&ジュエリーを扱う店では老舗。昨年11月に甲府市国母へオープンしたグランパーク店でちょうど12店舗目に当たるという。グランパークの中でも特に人気を集めているお店だ。

300坪の売り場面積には、時計にバッグ、香水や文具、小物等のギフトにメガネやジュエリーといった商品が各コーナーに分かれて並んでいる。県内でこれだけ取り扱い品目が幅広く、ブランドが充実している所もめずらしい。今まで東京、あるいは海外までわざわざ足を運んで購入していたものを手間ひまかけず、すぐに手に入れることができるようになった点は魅力が大きい。また「Love Love」では買い付けに力を入れているので、日本未発売のレアもの、新商品等が、他と比べて店頭に出る周期が格段に早く、しかも安いのが特徴だ。

入学・入社シーズンを迎える季節、贈り物には長く使えるいいものをと考えている方に、ぜひ一度みてほしい、おすすめのスポット。

お茶の間の民俗学(7)

—ふるさとの心と味(2)—

河口湖町の孫見祭りと「めまき」

志摩 阿木夫 民俗研究者
しま あきお

孫見祭りとは

毎年4月25日、富士山北麓によく春たけなわという声を聞くころ、河口湖畔の河口地区にある河口浅間神社の例大祭がある。この祭りのことを地域の人たちは「孫見祭り」と名づけて、地域の春一番の祭りとして盛大に催しているが「孫見」とはだれがどの孫を見るのかというと、そのルーツは『古事記』の神話までさかのぼっていかなくてはならない。

大昔のことである。オオヤマズミノミコトの娘コノハナサクヤヒメがニニギノミコトと結婚してホデリノミコト(海幸彦)とホスセリノミコト・ホオリノミコト(山幸彦=別名ヒコホホデミノミコト)を産んだ。このうち山幸彦のヒコホホデミノミコトはトヨタマビメノミコトと結婚して産まれた子がウガヤフキアエズノミコトで「孫見祭り」でいう孫というのは、河口浅間神社の祭神であるコノハナサクヤヒメの孫である。

4月25日の例祭の日は、河口浅間神社の祭神が、孫の誕生を祝って神雷と産衣を納めた神輿が行列を組んで、二キロメートルほど南にある産屋ヶ崎のお旅所まで渡御するというもので、この朝は出発に際して県の無形民俗文化財に指定されている「稚兒の舞」も演じられる。

行事食「めまき」

祭りの日には地域の人たちが「めまき」と呼ぶ食べ物を作る習慣がある。「めまき」とは海藻の「あらめ(荒布)」でワカサギや雑魚を包んで、一辺が七センチほどの正三角形にして、結び目を妻楊子で止めて煮た素朴なものだから、本来は「あらめまき」といったものが略されて「めまき」となったものであろう。

地域の伝承によれば、河口地域は古くから鎌倉街道の通過地点で、江戸時代は「富士講」の御師の家が多く、また甲斐と駿河を往来する旅人も盛んで、そのころこの地を訪れた士がその製法を教えてくれたものといっているが、その伝承は定かでない。それよりもその形といい素材といい、そのことから考えると、むしろ富士山に深い信仰を寄せて暮らしていた先人が、その心をそのまま形にした晴れの日の食べ物としたもののように思う。

素材の「あらめ」は海のものであるのに、山国の料理には相応しくないようと思われるが、あえてこれを素材としたのは、山幸彦が妻に迎えたトヨタマビメノミコトが海神の娘であったこ



とに、海への思いがこめられ、その「あらめ」で包む魚は河口湖で獲れたワカサギや雑魚であるから、これは間違いなく山の幸である。山海の幸を富士山の形にした「めまき」は、そのまま富士山信仰の心の現れであろう。

なお三角形の結び目に妻楊子をさすのは、それが富士登山の際の金剛杖を意味するもの、ということで、これもまた単純な結び止めだけの意味でないことがおもしろい。

4月25日、間もなくこの「めまき」を作る日がくる。

信仰から生まれた伝統の行事食は、この地域の人びとの誇りとして、また心の支えとして、今年も作られることであろう。

遊び人を喩えるならば？
たとえ

・好況のアメリカ株式市場

投資と投機

・用語のちがいを説明すると



×月×日

うちの父親は、もうかれこれ70歳に近い。その父親が最近母親と仲が良くて、私は少々不気味な感じを抱いている。というと奇異に聞こえるかもしれないが、父も文筆業と言う職業の多くに漏れず、以前は家庭について殆ど省みない人種だったからである。

その事を父に聞くと、「遊び人と言うのは、バイクの空冷式のエンジンのようなものだから…、走りつづけないと冷えないから遊ぶんだ！」という答えが返ってきて、妙に納得してしまった。

この喩は、非常によく出来ていると思っているが、日本のバブルの時代にも同じようなことがあった。高級品(ブランド品)、株式、ひいては土地のブームは、今となっては馬鹿馬鹿しいが、その時は何か参加しなくてはいられないような衝動に駆られて日本中がまさにバブルに踊ったのである。

現在、アメリカの株式市場は空前の好景気を呈している。ダウ平均は9000ドル台、ひいては、10000ドル台も夢ではない、と言われている。最近アメリカに仕事で行って、このブームが行き過ぎでないかと思えてきた。

それは単なる直感に過ぎないのであり、経済理論とはかけ離れたところにある。専門的に言うならば、例えば「通貨の供給量を上手に管理して、インフレもデフレも起こさせず、同時に為替の安定と、自国の産業の競争力を高め、加えて政府の財政的な安定を求める…云々」と言うような政策によって好況を維持することも可能であろうが、なぜか一抹の不安が拭い切れない。

ガルブレイスは、日本のバブルを「熱狂的陶酔」といったが、陶酔はいつか醒める。空冷式のエンジンも、走っている時は冷却の為に走りつづけることが必要だが、いつかは止まらなくてはならない。

×月×日

ここ数年、投資勧説の電話を受けることが多くなった。商品先物や、マンションなど不動産投資の話等である。いろいろな断る方法を試してみて最も楽だったのが、「今忙しいから、後で電話します」というものだが、(これだと大体の場合相手の電話番号は教えてくれない)、ある時しつこい相手に、「資産の運用、投資、投機という3つ

の言葉の違いを貴方なりに説明してください」と言ったことがあった。当然、そんな質問には答えてくれなかつたが、自分なりの言葉で説明すると以下のようなになる。

「運用」とは、個人および企業が現金などの流動性の高い資産を、リスクの低い非常に安全かつ流動性の高い(いつでも引き出せる)形で保有することで、「投資」は比較的リスクが高く、流動性が低いものを言うようである。加えて「投資」は、「設備投資」という言葉があるように、実際に投資を利用して事業活動を行う場合が多く、(株式投資の場合も大株主は企業の経営に発言権を持つ)。その点で「投機」と異なる。「投機」は主に、価格の上昇や下降を見込んで行うもので、投機で購入したものを現実に使うことはまれである。また「投機」が最もリスクが高い。

以上は、現在の自分がこれらの言葉に対して抱いている印象であるが、読者の方々で何か面白い例や意見をお持ちの方がいらっしゃったら、これらの言葉の違いについて教えていただけないものだろうか？

[文：杉村 聰]